―見せる·示す―

高輝度·使いやすさを向上したプロジェクター

日立のプロジェクターは，高輝度・高精細のハイエンドモデルから，小型軽量のモバイルモデル，大画面を省スペースで実現する超短投写モデルなど，多彩なラインアップをそろえている。最新モデルでは，スマートフォンやタブレット端末と連携し，操作性の向上を図るなど，教育やビジネスシーンでのニーズに対応したプロジェクターを製品化している。

1. 製品の特長

日立コンシューマエレクトロニクス株式会社の中・小会議室や教室向けスタンダードタイプのプロジェクターは，高輝度かつ多彩な機能で使いやすさを向上させ，幅広いシーンで活用できる。新たに製品化した「CP-X4015WNJ」,「CP-X3015WNJ」,「CP-WX3015WNJ」(図1参照) は，スタンダードタイプでは新たに，iPad※1) やiPhone※1) からワイヤレス※2) でプロジェクターの操作などができるアプリケーション「Projector Quick Connection」に対応したことや，ネットワークを経由した複数のプロジェクターの遠隔管理など，操作性の向上を図ったことが特長である (図2参照)。

2. スマートフォン·タブレット端末と連携

Projector Quick Connectionは，日立プロジェクターへiPadやiPhoneの写真やドキュメント，Webページをワイヤレスで転送・投写などができる無料のアプリケーションである。マルチ表示モードでは，最大4台までのiPad, iPhone，およびPC (Personal Computer) から同時に投写することが可能である。(図3参照)。

このほか，アプリケーションによって可能な主な操作は，電源オン／オフ，入力信号切り替えなどのプロジェクター操作，他のアプリケーションに保存されている写真やドキュメントなどの投写，およびネットワーク上にある接続可能なプロジェクターの自動検索などがある。

図1｜CP-X4015WNJ/CP-X3015WNJ/CP-WX3015WNJの外観

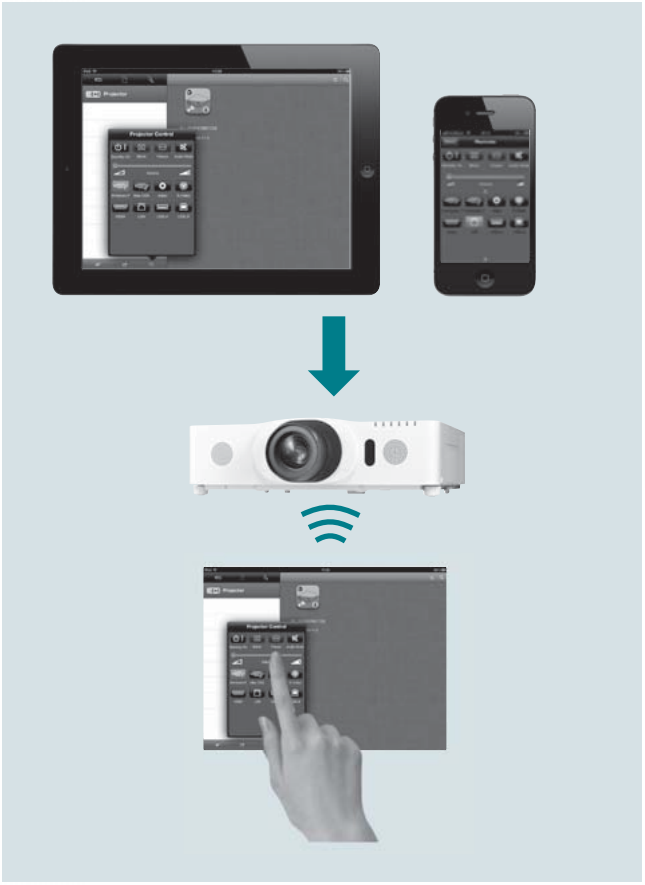

図2｜スマートフォン・タブレット端末対応アプリケーション「Projector Quick Connection」

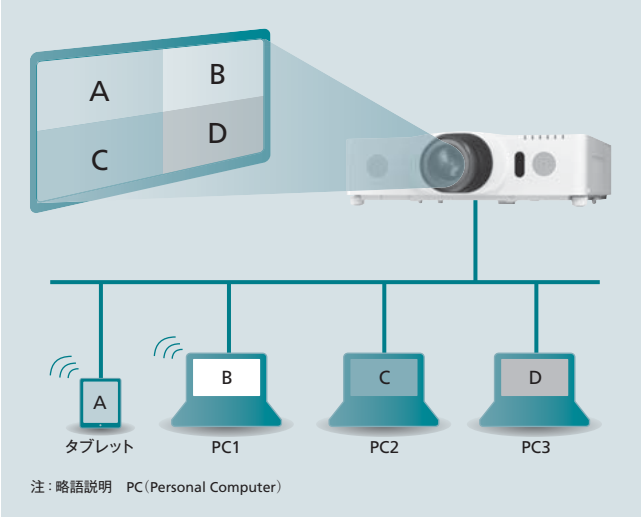

図3｜4画面同時投写機能のイメージ図

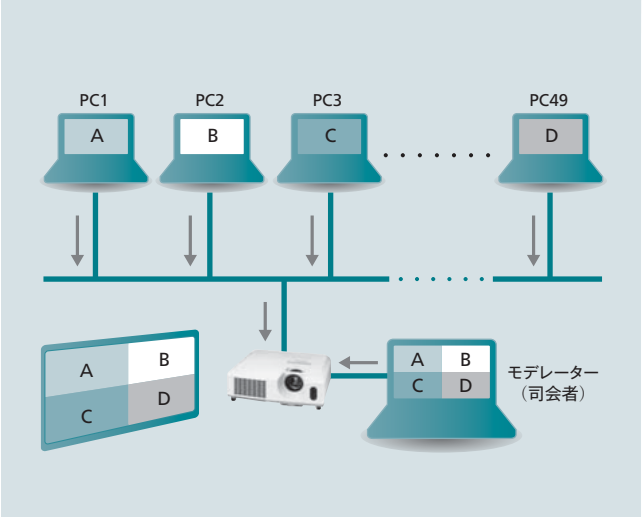

図5｜モデレーターコントロール機能の概要

3. ネットワーク機能

ネットワーク経由で複数台のプロジェクターを同時に遠隔管理および制御することが可能である。また1台のPCから最大12台のプロジェクターへ同時に映像を表示できる「マルチプロジェクター機能」（図4参照）や，一つのプロジェクターに接続された複数のPC，およびiPad・iPhone（最大50台）のうち，任意のPCをモデレーター（司会者）に設定し，モデレーターが端末を選択して表示する「モデレーターコントロール機能」にも対応している（図5参照）。

4. 省エネルギーと使いやすさの追求

ランプの電力を制御する「Image Care※3）」技術を応用した日立独自の「セーバーモード」と「インテリジェント・エコモード」に対応し，省エネルギーを図った。新たに搭載したセーバーモードは，設定した時間を超えて映像信号に変化がなかった場合，ランプの明るさを自動的に落とし，消費電力を抑える仕組みである。インテリジェント・エコモードは投写する映像の明るさに応じてランプ出力を自動調整するもので，この二つの機能を同時に有効にすると，本体消費電力を最大50％低減※4）できる。

また清掃間隔5,000時間※5）を実現してメンテナンス間隔を延ばした日立独自の「ハイブリッドフィルター」，罫（けい）線や地図などの画像があらかじめ内蔵された「テンプレート機能」や本体・リモコン操作部の日本語表記などを採用し，使いやすさを追求した。

4. 今後の展開

日立グループは，今後も技術開発に取り組み，さらなる操作性の向上や省エネルギー性能の向上を図るとともに，教育やビジネスシーンでのニーズに対応したプロジェクターを製品化していく。

※1）iPad，iPhoneは，米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標である。
※2）別売りのワイヤレスアダプター（USB-WL-11N）の装着が必要である。
※3）Image Careは，オランダ・ロイヤルフィリップスエレクトロニクス社の登録商標である。
※4）CP-X3015WNJの場合。使用する映像や設定条件により，低減幅は異なる。
※5）JIS粉塵使用時の塵埃（あい）試験結果による。実際の清掃間隔は使用環境により異なる。

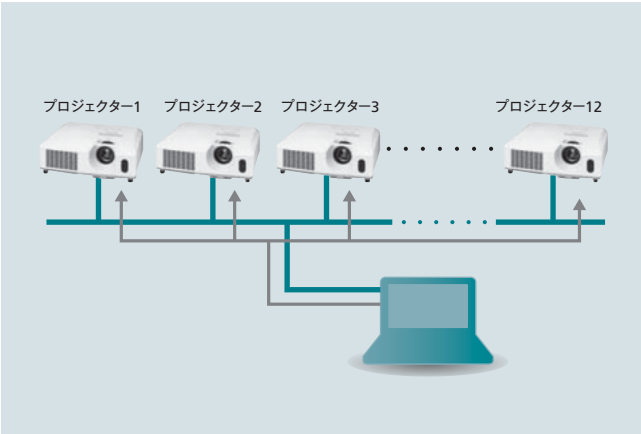

図4｜マルチプロジェクター機能の概要

お問い合わせ
家電ビジネス情報センター
0120-3121-19